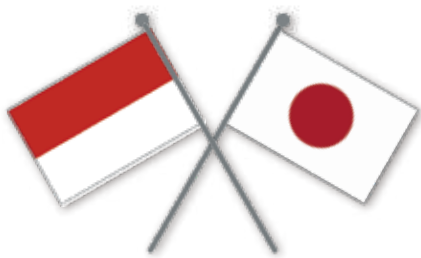


Bintang pari

南十字星



ジャカルタのスダ・クラバ港 ピニシ船（インドネシアの伝統的な木造船）



南十字星会

大阪大学外国語学部
インドネシア語専攻同窓会

第31号

2025 夏

Contents

-
- 2... ご報告 小原 一浩 (1963年卒)
-
- 3... EPA 看護師・介護福祉士候補者
国家試験への挑戦 西田 達雄 (1960年卒)
-
- 5... Salam dari Kampus
キャンパス便り 原 真由子教授
-
- 7... Penerapan Adab Islam dalam
Bermasyarakat di Jepang
Cynthia Vientiani 外国学専攻特任教員
-
- 10.. 変革のサウジアラビア 田中 保春 (1978年卒)
-
- 11.. 「サバンからメラウケ」まで 定年退職後の我が人生
篠崎 裕二 (1989年卒)
-
- 12... インドネシア留学記 白濱 大樹 (3回生)
-
- 13... インドネシアの経済成長と問題点の概観
梶谷 昌博 (1956年卒)
-
- 17... 海外生活の思い出 本田 正伸 (1969年卒)
-
- 18... 我が交遊録 小原 一浩 (1963年卒)
-
- 19... これからも続くインドネシア勤務、
カリマンタンへの赴任にあたって 金井 京一 1987年卒)
-
- 20... インドネシア駐在中です 増田 崇行 (2007年卒)
-
- 21.. ジャカルタ人の日常的なスポーツ活動
北村 彰範 (伊語 1996年卒)
-
- 23.. 2025 敬虔なイスラム教巡礼
南十字星会事務局
-
- 25.. Indonesia 政治経済年表 (短縮版)
M.M生 (1956年卒)
-
- 32.. インドネシア語が取り持つ不思議な縁
アリ・レゴヴォ博士 剣 小平 (1963年卒)
-
- 33.. 大阪関西万博 南十字星会事務局 小原 一浩
-
- 35.. ご紹介・支部だより
-
- 37.. 協賛者・お知らせ・会計報告・編集後記
-

表紙絵 (水彩)

「ジャカルタのスンダ・クラバ港 ピニシ船」

作者:宮崎 衛夫(1965年卒)

ジャカルタの旧港であるスンダ・クラバ港 (Pelabuhan Sunda Kelapa) を描いたもの。同港は、オランダ統治時代に東インド会社(VOC)によって造られた。現在でも島嶼間を往来し、貨物運搬用に使われているピニシ(Pinisi)と呼ばれる木造の帆船が、数多く停泊している。また近くに VOCの倉庫を改造した海洋博物館もあり往時の面影を偲ぶことができる。



「ご報告」

南十字星会会長
小原 一浩（1963 年卒）

全学選抜自主研究成果発表会に出席して

去る5月2日に豊中キャンパス内の大学会館で開催された令和6年度の学部学生自主研究成果発表会に出席しました。発表会は10回目を数え、全学の11学部から選抜された代表の自主研究成果の発表です。宮崎氏、松木氏と共に出席したのは外国語学部代表の白濱大樹君の発表があったからです。人間科学部代表の発表に続いて3番目の白濱君の主題は「戦後復興期のインドネシアと日本の関係性―大阪大学(旧大阪外国語大学)卒業生からの視点」でした。

研究目的は第2次世界大戦後復興期の日本・インドネシアの関係性の考察であり、①インドネシア復興に携わった日本人ビジネスマンの認識(生の声の収集)、②日本の戦後賠償が果たした役割とその後のインドネシアの復興でした。

この自主研究に当たり、菅原教授から南十字星会に協力要請があり、復興期にインドネシアに赴任していた同窓生に白濱君を紹介する事になりました。実は、同君は8月末には留学する予定があり、出発前の1か月間で大阪、東京の同窓生9人に直接インタビューをして研究をまとめました。今回の協力者は、当時に駐在していて両国関係に詳しい同窓会のメンバーでした。

インドネシアは1945年に独立宣言をし、オランダとの独立戦争の後1949年に完全に独立を達成しました。その後、1958年の「賠償協定」に基づき日本からインドネシアへ2億2308万ドル(803億880万円)の賠償金が支払われました。この賠償協定は、経済協力の始まりであり、その後の両国の友好関係発展に貢献しました。1963年当時、日本と同等だったインドネシアの人口(約1億人)は、現在は2億7千万人になり、世界4番目に多い国です。生産年齢人口が多く「人口ボーナス」状態が経済成長を後支えています。環境問題や財源不足など新興国ゆえの問題がありますが、大きなポテンシャルのある東南アジアの大国です。戦後復興期を通して阪外大の専攻語学科卒業生の多くが両国の交易に大きく貢献したことが伺えます。

そこで、南十字星会事務局の資料を基に少し当時を振り返って見ます。

1956年ごろから商社への就職が増えています。住友商事、野村貿易、岩谷産業、三井物産、蝶理、日商、野村、兼松、江商、岩井他、卒業生の半分以上が商社に



就職しているのは、日本の海外活動が活発になっていった時期と符合しています。他の語学科卒業生も、戦後日本の黎明期に海外雄飛した仲間が多いです。50年以上前のことですが企業から「語科指定」募集があり、就活時には「語科指定」と「英語堪能者」の会社を受験していました。当時、会社職員録を見ると大手商社の役員欄には阪外大出身者が名を連ねていたのを覚えています。専攻語関係業務に携わった卒業生が多い一方、メーカーにも海外業務従事者が多かったのは「外大出身」だからでしょう。大手商社への就職は、先達の働きが会社に認められたからです。就活は個人的な活動ですが、企業は人物を評価して有能な人材を採用していることが分かります。現在においても、K大学・M会(同窓会)と各企業との好連携はよく聞く話で、羨ましい限りです。

現存の2つの国立外国語大学(阪外大と東外大)は我が国の海外飛躍の原動力であったし、時代が変わり、外国語に対するニーズが変りつつある今でも、日本国にとって貴重な存在です。西の雄として阪大・外国語学部がなお一層リベラルアーツ色を強めながら更に発展して行くことを願っています。

発表当日、同君は留学先のバンドンから急遽帰国し発表会に臨みました。そして熊ノ郷新総長と11人の学部代表との記念撮影を終えた3日後に、元気に再び留学先のバンドンへ戻って行ったことをご報告いたします。

最後に自主研究の指導教官である菅原教授に、そして個人インタビューに協力された榎谷、木下、西田、滝本、岩井、内原、大田中、宮崎の各位に感謝とお礼を申し上げます。

<注>発表資料のご希望者は事務局までお申し出下さい。PDF資料を送信します。

EPA[※]看護師・介護福祉士候補者 国家試験への挑戦

※インドネシア・フィリピン・ベトナムとの
経済連携協定

西田 達雄（1960 年卒）



第114回（令和6年度）看護師国家試験合格者数

厚労省 '25.3.24(月) 発表 ※（）内前年度の数字 試験日'25.2.16(日)

	受験者数	合格者数	合格率
総計	63,131人 (63,301人)	56,906人 (55,557人)	90.1% (87.8%)
EPA看護師候補者	285人 (294人)	53人 (17人)	18.6% (5.8%)
インドネシア	137人 (130人)	10人 (0人)	7.3% (0%)
フィリピン	84人 (97人)	13人 (6人)	15.5% (6.2%)
ベトナム	64人 (67人)	30人 (11人)	46.9% (16.4%)

上記には、一定基準以上の再受験資格者や一旦帰国後再来日受験者を含む
現役看護師数1,730,000人('23.7.7現在)

第37回（令和6年度）介護福祉士国家試験合格者数

厚労省 '25.3.24(月) 発表 ※（）内は前年度の数字 試験日'25.1.26(日)

	受験者数	合格者数	合格率
総計	75,387人 (74,595人)	58,992人 (61,747人)	78.3% (82.8%)
EPA介護福祉士候補者	1,314人 (521人)	498人 (228人)	37.9% (43.8%)
インドネシア	649人 (189人)	237人 (42人)	36.5% (22.2%)
フィリピン	487人 (155人)	111人 (33人)	22.8% (21.3%)
ベトナム	178人 (177人)	150人 (153人)	84.3% (86.4%)

上記には、一定基準以上の再受験資格者や一旦帰国後再来日受験者を含む
介護福祉士登録者数2,003,007人('25.2.28現在)

上記がEPA（政府間経済連携協定）をベースに、インドネシア(2008年スタート)・フィリピン(2009年スタート)・ベトナム(2014年スタート)より来日し、一定の研修後、日本全国各地で、働き乍ら学ぶ看護師候補者・介護福祉士候補者が令和6年度国家試験に挑戦し、その結果となる合格者数であり、昨年に続いて、本件を中心に下記レポートさせていただきます。

EPA看護・介護候補者への研修は、最近では、コロナ感染禍の悪影響も少なくなってきたおり、令和6年度の看護師候補者の合格率は大きく改善しており、また介護福祉士候補者の受験者数は前年の2.5倍以上の大幅増となっております。お分か

りの通り、ベトナム介護候補者の合格率は、前年に続き、全体の合格率を上回っております。インドネシア看護合格者数は前年130人受験し、合格者は0でしたが、本年度は137人受験し、10名が晴れて合格となっております。また介護受験者数は前年の3.4倍の649人が受験し、237人が合格して、合格率も前年の22.2%から36.5%へと改善が読み取れて、看護・介護両分野で、現場で働き乍ら学ぶ、受験者各人の継続した学習態度と共に、研修を担当された国際交流基金や海外産業人材育成協会(AOTS)に依る熱心なご対応や候補者を受け入れた病院・介護施設側の日々のご指導の賜物でしょう。

前回にも記したが、看護師候補者は来日前に自国で研修を終えて、来日後の研修を経て、働き乍ら学び、年一度の国家試験に2－3回挑戦し、滞在期間は3年ですが、試験結果に依り、更に滞在延長し受験可となり、また本国に帰国後も再受験も可能となっておりますが、渡航・滞在費の負担が生じます。介護福祉士候補者も自国での研修後來日し日本での研修を経て、全国各地の介護施設に赴任し、3年間の実務経験を体験し、4年目の受験となり、此方も成績に依り一年延長可となっております。入国条件として、ベトナム人には日本語能力N-3取得、インドネシア人にはN-4取得、フィリピン人にはN-5からN-4への変更をネゴ中と聞いており、またベトナム人の現地での応募時に、N-3既得者には自国での研修12ヶ月間を3ヶ月間でOKとしております。

尚、「介護」に付いては、上記のEPA制度以外に、1993年スタートの「技能実習制度」や、2019年スタートの「特定技能制度」があり、此度の国家試験では、技能実習生から155名受験、50名合格(合格率32.2%)、特定技能実習生から4,932名受験、1,643名合格(合格率33.3%)しております。政府もこの「特定技能制度」による受け入れに熱心で、「介護」分野の国籍別受け入れ数では、トップがインドネシアで12,242人、割合27.6%で、次がミャンマー11,717人、ベトナム8,910人、ネパール3,602人、中国1,103人と続いて、2024年12月時点で、総計44,367人となっています。今後特定技能制度で入国した介護候補者の国家試験合格者数も更に増加することになるでしょう。介護福祉士に合格すれば、家族帯同も可能となり、長期に互る就労となり、一方では最近で国内デマンドも高く、更なる高齢化で、介護人材の必要性は更に増加するでしょう。



◀ 防災体験

令和7年度EPA看護・介護候補者の受入れ予定数と 研修担当組織とその期間

※（ ）内は前年度の数字

	看護師候補者数	介護福祉士候補者数	合計
EPA候補者数	47人 (45人)	553人 (622人)	600人 (667人)
インドネシア	16人 (15人)	298人 (300人)	314人 (315人)
フィリピン	19人 (15人)	203人 (236人)	222人 (251人)
ベトナム	12人 (15人)	52人 (86人)	64人 (101人)

研修担当とその期間

	本国	日本
インドネシア	国際交流基金 6カ月間	AOTS (海外産業人材育成協会) 6カ月間
フィリピン	国際交流基金 6カ月間	(株)アーク・アカデミー 6カ月間
ベトナム	(株)明光 Network Japan 12カ月間	(株)アーク・アカデミー 2.5ヶ月間

以前にも記したが、上記のEPA協定では、各国共に受け入れ看護師候補者数はMAX200名、介護福祉士候補者数はMAX300名可能となっているが、実態では、看護師候補者数の大幅未達は続いております。

今年度来日するインドネシア看護・介護候補者の国内研修担当はAOTS(一般財団法人 海外産業人材育成協会 The Association for Overseas Technical Cooperation & Sustainable

Partnerships 在東京都足立区千住東)であり、昨年12月16日(月)筆者はAOTS新理事長・吉田泰彦氏へのご挨拶に上がった際、AOTS側のアレンジで、研修中の教室に案内され、在席の候補者を激励すると共に将来母国に帰国すれば、この分野での主導的役割を果たしてほしいと下手なインドネシア語で話して、赤恥を晒したが、これに応えて、研修生の代表からは極めて上手な日本語で積極的で 前向きな発言があり、大いに力強く、有難く感じた次第でした。その時の写真も含めて、上記掲載の通り、AOTSより提供いただきました。

6月初めには、インドネシア看護・介護候補者は、事前のMATCHINGを経て、各々既に合意済みの日本各地の病院や介護施設に赴き、働き乍ら学んで、上述の国家試験への挑戦となります。このMATCHINGは 公益社団法人 国際厚生事業団 JICWELS(Japan International Corporation of Welfare Services 在東京都中央区銀座)のアレンジに依るものです。また一般社団法人 日本インドネシア協会(会長 福田康夫氏 在東京都中央区入船)では、国内研修を終えて、極寒の12月末に現場に赴任する看護・介護候補者全員に冬期対応品を提供しております。

話題は変わりますが、昨年につづいて、筆者のふるさと・京都丹波の田舎の特別養護老人ホーム2カ所で、各々一名の国家試験合格者ベトナム人が誕生しており、彼の地の友人に、地域の為に働く彼等への温かいATTENTIONや各種SUPPORTを求めておきましたが、いろいろACTIONを取って頂いており、大変有難く感じております。

親愛なる南十字星会員の皆様へ、看護・介護候補者にとっては、異国の地である貴方の街の病院や介護施設で、明るく真面目に働く彼等との出会いやお見掛けの際は、進んで温かい激励のお声を掛けて頂き、更に地域として彼等との交流の場へと進めて頂ければ、誠に有難い次第です。



▲ 研修の様子

筆者の研修見学 ▶



Salam dari kampus!



キャンパス便り

大阪大学大学院

人文学研究科外国学専攻

教授 原 真由子

大阪大学箕面キャンパスが2021年4月に箕面栗生間谷から箕面船場に移転し、早くもすでに4年が経ちました。この新キャンパスで初めての卒業生を出したことになります。また箕面船場阪大前駅の完成から1年経ち、キャンパス周辺もとても賑やかになり、駅近マンションの建設ラッシュです。この1年間の専攻語の様子を振り返り報告いたします。

インドネシア留学生協会 (PPI) 大阪奈良支部との交流

定期的にインドネシア語専攻の学生はインドネシア留学生協会 (PPI) 大阪奈良支部のメンバーとの交流イベントを行っています。2025年2月8日には交流餅つき大会を開催しました。

ジャカルタスタディツアー

菅原由美先生の引率のもと、1~2年生の計22人が9月約2週間、ジャカルタに滞在しました。その間、インドネシア大学の協力を得ながら、各種講義を受講する他、Kota TuaやPulau Seribuなどを訪問しました。その時の様子をyoutubeで見ることができます (作成 komunitas jelajah budaya)。



スタディーツアー (Pulau Bidadariにて)

語劇祭

箕面キャンパスで欠かせないイベントが、語劇祭です。2024年度は、11月23日~24日に開催され、22専攻語が参加しました。インドネシア語専攻は、2年生が中心となり「3つの誓い」(Tiga Sumpah)という劇を上演しました。



スピーチコンテスト

2024年11月~12月に3つのインドネシア語スピーチコンテストが国内で開催され、1年生と2年生が参加し、以下の通り受賞しました。

インドネシア共和国総領事館賞インドネシア語
スピーチコンテスト (2024年11月9日)

坂井 日菜 (インドネシア語専攻2年)
中級 準優勝

“Orang Indonesia yang Saya Lihat”
「私が見たインドネシア人」

インドネシア共和国総領事館賞インドネシア語
スピーチコンテスト (2024年11月9日)

加藤稜平 (インドネシア語専攻1年)
初級 優勝

“Indonesia di mata saya”
「私の目から見たインドネシア」



スタディーツアー (pesantrenにて)

第17回神田外語大学インドネシア語
スピーチコンテスト (2024年11月30日)

関 誠太郎 (インドネシア語専攻1年)
カテゴリー A 最優秀賞 (第1位)

“Menyampaikan pesona Indonesia kepada
Masyarakat Jepang Bersama PPI!”

「インドネシア人留学生協会と一緒に
日本社会にインドネシアの魅力を伝えよう！」

第14回南山大学インドネシア語
スピーチコンテスト(2024年12月1日)

西原穂華 (インドネシア語専攻1年)
スピーチの部 第3位

“Nilai-nilai budaya Indonesia-Jepang”
(インドネシアと日本の文化の価値)



そのうち、加藤さんと関さんは外国語学部学部長賞を受賞しました。

卒業論文と卒業式

2024年度は、15人が卒業しました。外国語学部の特徴ですが、半分は留学やインターンシップなどのために5年、6年かかっています。

卒業式は、3月25日に例年通り大阪城ホールで開催されました。2023年度までは、卒業式の後に大阪城ホール近くのビルを借り外国語学部の証書授与式を行っていましたが、箕面船場阪大前駅ができ、移動も楽になったため、2024年度は箕面キャンパスで行いました。

また、卒業後の就職先は、例年メーカー、旅行会社、航空会社、商社など様々です。業種別では、特に専攻語間に違いはなく、外国語学部の傾向としては、製造業が最も多く、次いで情報通信業、サービス業、金融・保険業が続きます。外国語学部のHPで近年の進路状況や主な就職先が掲載されておりますので、関心のある方はご覧ください。



外国語学部のHP

新年度開始

2025年度が始まり、18人(日本語専攻1人含む;男子8人、女子10人)の新入生が入ってきました。1年生は共通教育が行われる豊中キャンパスにあり、外国語学部の1年から始まる専門教育(語学実習)は、私たち教員が豊中に移動し教えています。入学して2ヶ月近く経ち、環境の変化にも慣れてきたようです。



1年生

自主研究奨励事業

4年生の白濱大樹さんが令和6年度「学部学生による自主研究奨励事業」に選ばれ、「戦後復興期の日本とインドネシアの関係性-日本人ビジネスマンの視点から」というテーマで、同窓生の皆様のご協力も得ながら、自主研究を行いました。5月2日には全学自主研究成果発表会と授賞式があり、優秀賞を受賞しました。



Penerapan Adab Islam dalam Bermasyarakat di Jepang

日本社会におけるイスラム教のマナーの実践



Universitas Osaka - Kampus Minoh

大阪大学人文学研究科

外国学専攻特任教員

Cynthia Vientiani

(シンティア・フィエンティアニ)

翻訳 梶谷昌博 (1956年卒)

Tahun 2025 adalah tahun ketiga saya menginjakkan kaki di Osaka, Jepang. Selama itu, banyak pelajaran hidup yang dapat saya petik, susah atau senang, baik maupun buruk. Sedikit demi sedikit, pengalaman itu akan saya coba tuangkan ke dalam tulisan ini. Entah menarik atau tidak, biar pembaca yang menilai. Setidaknya saya berharap ada setitik manfaat di dalamnya.

2025年は私が日本の大阪に足を踏み入れて3年目になります。その間、私は困難なことも幸せなことも、良いことも悪いことも含め、多くの人生の教訓を学びました。少しずつ、この経験を文章に書き綴っていこうと思います。面白いかどうかは読者の判断にお任せします。少なくとも、その内容が少しでもお役に立つことを願っています。

Sebagai seorang muslim sejak lahir, tentu banyak ajaran Islam yang memengaruhi prinsip hidup saya, baik berasal dari dalam maupun luar diri. Sejak kecil, saya diajarkan adab dalam menjalani kehidupan sehari-hari. Kami diajarkan konsep habluminallah dan habluminannas (hubungan kepada Allah sebagai pencipta dan hubungan kepada sesama manusia) selama hidup di dunia. Agar kedua hubungan itu teratur dan terjaga, diturunkanlah Al-qur'an dan hadits yang dijadikan sebagai petunjuk menjalani kehidupan.

私は生まれたときからイスラム教徒として、もちろん、私自身の内外から、私の人生の信念に影響を与えるイスラムの教えがたくさんあります。私は小さい時から日常生活を送る上での礼儀作法を教えられてきました。私たちはこの世に生きる間、habluminallahと habluminannas (創造主としてのアッラーとの関係と、他の人間との関係) という概念を教えられます。この二つの関係が秩序正しく維持されるように、人生を生きるための指針となるクルアーン (コー

ラン、イスラム教の聖典) とハディース (ムハンマドの言語録) が啓示されました。

Setiap orang yang mengaku dirinya muslim, mungkin tahu tentang pedoman tersebut. Namun, apakah pedoman tersebut diterapkan atau diamalkan secara sempurna? Saya ragu menjawabnya, semua bergantung kepada pribadi. Kami dibebaskan menjalaninya, tetapi pertanggungjawaban nanti di hadapan Tuhan pada hari akhir atau pembalasan. Setiap perbuatan baik atau buruk selama di dunia akan dicatat dan dilaporkan kepada Allah dan sebagai ganjarannya, kami mendapat tempat kehidupan akhir di surga atau neraka.

イスラム教徒であると認める人は皆、おそらくこれらのガイドラインについて知っているでしょう。しかし、これらのガイドラインは適用されているのでしょうか、あるいは完璧に実践されているのでしょうか？ 私は、これが答えに躊躇します、それはすべて個人によります。私たちはそうする自由を持っていますが、最後の日、つまり罰の報いの日に神の前に責任を問われることになります。この世でのあらゆる善行や悪行は記録され、アッラーに報告され、その報いとして私たちは最後の人生を天国か地獄の居場所を得ます。

Mengapa saya menulis seperti ini? Sebab, setelah menjalani kehidupan di Osaka, saya cukup banyak menemukan adab dan budi pekerti tinggi yang bersentuhan dengan ajaran Islam. Lebih tepatnya dalam penerapan habluminannas. Saya teringat sebuah perkataan dari seorang ulama, "saya menemukan Islam di negara yang bukan Islam." Ternyata, perkataan itu juga yang saya rasakan di sini. Memang katanya, makin tinggi ekonomi negara, makin tinggi peradaban maupun budi pekerti masyarakatnya. Adab hubungan sesama manusia yang terasa kental dalam masyarakat Jepang adalah pengucapan salam. Ketika bertemu, berpisah, makan, masuk atau keluar rumah, bekerja, tidur, dan lainnya.

何故私がこのように書くのでしょうか？ 何故なら、大阪に住んでみて、イスラムの教えに通じる高い礼儀作法や道徳品行をかなり多く発見したからです。より正確には、habluminannasの適用です。あるイスラム指導者が「私は非イスラム教の国でイスラム教を見つけた」と言ったのを覚えています。果たして、まさにその言葉と同じことを私はここで感じています。勿論、国の経済が高まれば高まるほど、国民社会の文明度や道徳度も高くなると言われています。日本の社会で強く感じられる人間関係の礼儀作法は挨拶です。会うとき、別れるとき、食事をするとき、家に入ったりするとき、仕事をするとき、眠るとき、などです。

Ada sebuah cerita berkesan bagi saya tentang ucapan salam. Suatu hari yang melelahkan, saya naik bus kampus untuk perjalanan pulang. Ketika turun dari bus, sopir bus mengucapkan salam kepada setiap penumpang

“Arigatougozaimasita atau Otsukaresamadesu” . Mendengar ucapan salam itu, seketika semangat saya bangkit dan merasa segala usaha pada hari itu dilewati tanpa sia-sia. Adab mengucapkan salam dan doa dalam Islam juga sangat banyak. Jadi kadang saya menerapkan banyak pengucapan salam ke orang di sekitar saya.

私にとって挨拶に関する印象的な話があります。ある日、疲れた私は学内バスに乗って家に帰りました。バスを降りる際、運転手は乗客一人一人に「ありがとうございました」や「お疲れ様です」と挨拶をします。その挨拶を聞いて、私の気分はすぐに高揚し、その日の努力はすべて無駄骨ではなかったと感じました。イスラム教にも挨拶や祈りが数多くあります。ですから、私はそれを実践して周りの人にたくさん挨拶をするようにしています。

Ada satu cerita lain yang menarik dari sopir bus kampus. Waktu perjalanan dari Kampus Minoh ke Toyonaka, angin bertiup kencang sehingga banyak ranting pohon dan daun yang berserakan di jalan. Ketika bus mendekati Kampus Toyonaka, ada sebuah cabang pohon yang ukurannya tidak terlalu besar teronggok di jalan. Sebenarnya, cabang pohon itu tidak terlalu mengganggu dan jalanan pada saat itu kosong. Jika saja sopir bus kampus tidak menyingkirkan cabang pohon tersebut, hal itu tidak akan berpengaruh dalam perjalanan hari itu. Namun, yang saya saksikan berbeda. Sopir menghentikan bus, lalu turun untuk menyingkirkan cabang pohon itu. Sederhana! Atau mungkin biasa! Tetapi, apa yang saya lihat itu sungguh penerapan sebuah hadits dalam Islam, seorang diganjar surga karena perbuatan baiknya, yaitu menyingkirkan penghalang di jalan. Ajaibnya si sopir bus itu baru saja menerapkannya.

学内バスの運転手からもう一つ他の興味深い話がありました。箕面キャンパスから豊中キャンパスまでの運転中、風が強く吹いており、道路には多くの木の枝や葉が散らばっていました。バスが豊中キャンパスに近づくと、道路にそれほど大きくない木の枝が落ちていました。実際、木の枝はそれほど邪魔にならず、当時通りには人影もありませんでした。学内バスの運転手が木の枝を取り除いていなくても、その日の運行に何の影響もなかったでしょう。しかし、私が目撃したものは違いました。運転手はバスを止め、木の枝をどかすために降りました。シンプル！あるいはただ普通なかれかもしれませんが、私が見たのはまさにイスラム教のハディースの一つの実践であり、道の障害物を取り除くという善行故にその人は天国に報われるというものでした。驚いたことに、バスの運転手はそれを実行しました。

Lanjut lagi, kali ini dalam standar operasional (SOP) pelayanan publik. Dalam konsep Islam dikenal istilah “Permudahlah urusan saudaramu maka Allah akan

mudahkan urusanmu.” Waktu dulu, saya sering berhadapan dengan pengurusan surat-surat administrasi di Jakarta atau Depok tempat tinggal saya dahulu. Saat itu, pelayanan publik atau birokrasi sangat membuat hati lelah. Kadang pelayanan dirasa menyusahkan, berbelit-belit, dan banyak waktu yang terbuang. Walaupun belakangan ini, saya merasa ada perubahan jauh sejak tersedia pelayanan daring. Pungutan liar atau calo pun sudah jauh berkurang. Di Jepang, sejauh ini, saya menemukan kesesuaian dalam pengurusan administrasi, di imigrasi, balai kota, bank, terlebih di Kampus Universitas Osaka. Hampir semua berjalan sesuai sistem, tugas, dan disiplin jam kerja.

続いて、今度は公共サービスの標準操作手順 (SOP) についてです。イスラム教の概念には、「兄弟のために物事を楽にすれば、アッラーはあなたのために物事を楽にしてくれる」という言葉が知られています。以前、私が住んでいたジャカルタやデポックでは、行政上の書類処理を頻繁に行わなければなりませんでした。当時、公務員や官僚制度は非常に心労ものでした。時々、サービスが面倒で複雑で、多くの時間を無駄にしていると感じます。それでも、最近ではオンラインサービスが利用できるようになって、大きな変化があったと感じています。違法な徴収やブローカーも大幅に減少しました。日本では、これまで私が見る限り、入国管理局、市役所、銀行、特に大阪大学における手続きでは、一貫性というものがあります。ほぼすべてがシステム、タスク、および労働時間の規律に従って実行されます。

Hal lain terkait adab adalah cara berpakaian. Selama hidup di Osaka, saya menemukan para perempuan berpakaian rapi, sopan, dan tidak terbuka. Mungkin adat timur masih dipegang kuat dalam penerapannya. Walaupun sedang musim panas, pakaian para perempuan



Musim Panas, Kiyomizu dera, Kyoto

tidak terbuka. Bahkan mereka masih memakai pakaian yang tertutup dengan material bahan yang berteknologi tinggi. Bahan disesuaikan dengan musim tanpa harus memotong atau mengganti gaya. Kecenderungannya orang Jepang mempunyai gaya dan kekhasan sendiri dalam berpakaian. Saya suka itu, banyak gaya berpakaian di Jepang, tetapi pada dasarnya masih dalam koridor sopan, nyaman, dan keren.

マナー(礼節)に関連するもう一つのことは服装です。大阪滞在中に、女性たちは身なりがよく、礼儀正しく、控えめだと感じました。おそらく東洋の慣習が今でもしっかりと守られているのでしょう。夏であったにもかかわらず、女性たちの服装は露出度が高くはありませんでした。それどころか、彼女らは今でもハイテク素材で作られた密閉型の衣服を着ています。カットしたりスタイルを変えたりすることなく、素材を季節に合わせています。日本人は服装において独自のスタイルや特徴を持っている傾向があります。私はそれが気に入っています。日本にはさまざまな服装のスタイルがありますが、基本的にはなおも礼儀正しく、快適で、カッコいいものになっています。

Mungkin orang berpikir saya terlalu berlebihan dan menggunakan cocoklogi, tetapi pengalaman yang saya dapatkan. Dari semua cerita itu, hal yang paling membahagiakan bagi saya selama hidup di Jepang, yaitu saya dapat berangkat ke tanah suci. a, saya berangkat haji pada tahun 2024 tanpa antre. Sementara di

Indonesia, saya sudah mendaftar program haji reguler dari pemerintah Indonesia, sayangnya antrean di Indonesia bisa mencapai 20 hingga 40 tahun sebelum keberangkatan. Dari Indonesia, InsyaAllah porsi nomor haji saya baru dapat berangkat 22 tahun lagi. Pada tahun tersebut, saya sudah tua dan belum

Jabal (丘)An-Nur, Mekah tentu masih hidup, kan. Oleh sebab itu, naik haji dari Jepang adalah hadiah dari Allah kepada saya. Saya terima dengan mudah dan lancar tanpa kekurangan sedikit pun. Bahkan, bantuan dari Ibu Hara, Ibu Yumi, dan Bapak Matsumura membuat perkuliahan di universitas dan perjalanan haji saya makin mudah dan lancar.

人々は私が誇張して無理やりこじつけていると思うかもしれませんが、それが私が得た経験です。その中で、私が日本で暮らして一番幸せだったことは、それは私が聖地に行くことができたことです。はい、2024年に列に並ばずにハッジ(hadžd=巡礼)に行きました。インドネシアに居る間に、私はインドネシア政府の定期ハッジプログラムに登録しましたが、残念ながらインドネシアでは出発前の待ち行列が20年から40年に達することがあります。インドネシアからは、InsyaAllah(神の思召しにより)、ハッジへの私の順番では、22年後にようやく出発できます。その年、私はすでに年老いていて、必ずしもまだ生きているわけではないですよ？したがっ

て、日本からハッジを行うことは私にとってアッラーからの贈り物なのです。なんの不具合もなく、簡単にスムーズに受け取りました。実際、原さん、由美さん、松村さんの助けにより、私の大学での授業とハッジの旅はより楽でスムーズなものになりました。

Saya rasa demikian pengalaman dan pandangan saya selama tinggal di Osaka terkait adab dalam kehidupan bermasyarakat. Selama ini lebih banyak kemudahan dan kebaikan yang saya alami. Saya berdoa semoga akan berlanjut seperti ini. Sebenarnya masih banyak pengalaman lain yang terkait kesamaan dan perbedaan. Namun, karena keterbatasan ruang, saya bisa menuliskan atau mendiskusikannya pada waktu lain. Terima kasih selalu kepada Bapak dan Ibu yang sudah mempercayakan saya berbagi pengalaman hidup saya di komunitas alumni bahasa Indonesia Universitas Osaka. Semoga selalu sukses dan sehat untuk semuanya. Salam takzim, Cynthia.

私が大阪に滞在した間に得た社会生活におけるマナーに関する経験と見解をこのように感じます。今まで、さらに便利さ、良さを実感してきました。願わくばこのまま続いていくことを祈ります。実際、類似点と相違点に関する経験は他にもたくさんあります。ただし、スペースの制限があるため、別の機会に書いたり話したりできればと思います。大阪大学のインドネシア語同窓会コミュニティで私の人生経験を共有するよう私を信じ託してくださった皆様に、いつも感謝しています。皆様が常に成功し、健康でありますように。よろしくお願いします。

Cynthia



Jabal (丘)An-Nur, Mekah